

家読(うちどく)おすすめ本(小学校)

～ おもしろいよ! よんでみて ～ 2018年3月号



『おかしなめんどり』

林なつこ/作・絵 鈴木出版

めんどりが ひるねを していると
とりごやのなかへ くろいてが のびてきて
めんどりを わらのしきものごと ひよいと
もちあげ かけだしました。それは ぬすっと
ぎつねでした。ぎつねはうちへかえり りょうり
のほんを ひろげます。ぎつねが「どうやって
たべようか」と かんがえていると、めんどりの
おなかのしたから ひよこがいちわと たまこが
ひとつ あらわれました。ひよこが「ぼくたち
たべられちゃうの?」ときくと、めんどりは
ひよこに ひそひそひそ。ぎつねはオープン
をあたためはじめ ぶりむきました。

そこにいたのは…。さてさて

めんどりはどうなるの

でしょうか。 えほん

『きみ、なにがすき?』

はせがわさとみ/作 あかね書房

もりのおくに あなぐまがすんでいます。
あるひ、あなぐまは はたけで おいしい
ものをそだてて ともだちをよぼうと かんが
えました。あなぐまは くさをぬきはじめまし
た。ごきげんで うたいながら、なんのたねを
まこうかと かんがえます。なかよしのこぶたが
だいすきな ジャがいもをうえようと まちに
でかけることにしました。あるいていくと、むこ
うから こぶたがやってきて かごいっぱい
の ジャがいもをくれました。そこであなぐまは
つぎは なにをつくろうと かんがえました。
さて、あなぐまは ともだちに
なにをつくってあげるのかな?

低学年から

『ほっとい亭のフクミミちゃん』

～ただいま神さま修業中～

伊藤充子/作 高谷まちこ/絵 偕成社

べんとうや〈ほっとい亭〉は、あまりお客がこ
ないので、〈ほっとい亭〉とよばれていました。
そこへ、フクミミちゃんという小さな女の子が
やってきて、元気よくあいさつしました。ひと
りで店をきりもりしているのはハルさんです。
「わたしは福の神なの」というフクミミちゃん
に、ハルさんは「なにもしなくていいよ」とい
いますが…。商店街の福引であたりをひいたハ
ルさん、そこへ福の神試験に合格したフクミミ
ちゃんがやってきたのです。フクミミちゃん
は、駅前でチラシをくばりますが、うけとって
もらえません。すると大黒天さまの使い魔の
ネズミのスアマがやってきました。スアマは
フクミミちゃんのおともで…。 中学年から

『繕い屋の娘カヤ』

湄田依子/著 岩崎書店

「祝の森」と呼ばれる森の麓に、カヤという
子どもが一人で暮らしていました。カヤが暮ら
す国は貿易が盛んになり、武器も輸入され文化
の違いからケンカが起き紛争になりました。戦
火が広がるとカヤのお父さんは、街を守るため
連れていかれ、お母さんは仕事に行き戻ってき
ません。一人ぼっちのカヤは、たくさんの本か
ら勉強し、職人だったお父さんの道具を使い、
繕い屋になりました。繕い屋とは、ものを直す
仕事です。たくさんの家や道さえ紛争で壊され
ていました。カヤはお父さんがしていたお屋敷
の仕事をしています。ある日、カヤが神社でお
参りをして帰ろうとしたその時です。雷のよ
うな大きな音がして、獣の大きな鳴き声が聞こ
えました。獅子のような犬がうずくまっていた
のです…。 高学年から



しょうかいしている本は市民図書館にあります☆

発行：伊万里市民図書館

電話 23-4646 FAX23-3231

<http://www.librarv.city.imari.saga.jp/>